

第3次岡山市協働推進計画（素案）へのパブリックコメントについて

（１）募集期間 令和7年12月8日（月）～令和8年1月7日（水）まで

（２）提出意見 意見数8件（3人）

意見区分		意見要旨	意見への対応	計画への反映
1	全体	多くの情報に基づく現状分析と、第2次計画に対する丁寧な評価・検証が行われている。行政の役割としてあたりまえのように捉えられがちだが、これだけ丁寧に協働に関する計画を策定（評価・検証含む）する自治体は決して多くなく、岡山市の協働推進に対する真摯な姿勢と職員の誠実な仕事に心より敬意を表す。	個人の価値観が多様化し、社会が急速に変化するなど、市民ニーズや地域課題は複雑化・多様化しており、地域活動を行っている団体の取組がさらに充実・発展していくためには協働の取組が必要不可欠です。本計画は、岡山市協働のまちづくり条例第14条に基づき、多様な主体による協働を推進するための計画であり、豊かで活力ある持続可能な地域社会の実現に必要と考えています。	今後の施策・事業の参考とさせていただきます。
		素案における「協働の担い手の拡大」と「地域課題解決に向けた官民連携の強化」の方向性を歓迎する。		
		「協働による効果」を協働成果指標（KPI）の数値や事例で可視化し、市民への説明責任と改善につなげる。		
		医療・福祉支援における早期連携体制の促進として、高齢者や障害のある方の支援において、行政・医療・地域団体が進行状況を共有できる仕組みを構築し、支援の取りこぼし防止につなげる。 将来的な支援コストの削減にも寄与するものとする。		

2	若者の 人材育 成	（基本施策 1-3）若者の社会・地域への参画を推進する施策として学校との連携が考えられる。小・中学校の授業の一環で地域の行事や NPO の活動に参加する機会を提供できれば、子ども、学校、地域、NPO のすべてにメリットがあるのではないかと考える。なお、類似事業（例えば環境や SDGs などテーマとした出前授業など）が存在するため、庁内外の関連情報を集約しつつ、一元的なコーディネート（例えば、ESD・市民協働推進センターや公民館が一括して連絡・調整を担うなど）が実現できれば、さらに効果・効率を高めることができると思う。 いきなり若者の参加を図るのは難しいと考える。小学生と中学生の地域行事へボランティアとして参加を図る 1 つのツールとして SDGs パスポート、ESD カードが考えられるが、採用している中学校は数校で、ESD カードを採用している小学校はさらに少なく 1, 2 校ではないかと思われる。学校の理解を得て保護者と生徒と学校の連携を図り、子どもの頃から地域に関わり保護者も含め経験することで、人材を養成していく方法も検討課題の 1 つと考える。 若年層の協働参加促進プログラムとして、大学・高校と連携し、地域プロジェクトを単位認定や就職支援に結びつけ、持続的な参加を促す。若年層の参加を促すため、学校や企業等との協働をさらに推進することで、持続可能な地域づくりが実現できると期待している。	学生を含む若者が取り組む活動について、参加するきっかけづくりや、関係課と連携して必要な支援を検討していきます。	今後の施策・事業の参考とさせていただきます。
3	情報発 信等の 充実	協働情報の一元化と見える化の強化として、市民団体の活動情報・助成金・相談窓口等を「ワンストップ」で検索できるオンライン機能を充実させ、特にデジタルに不慣れな市民向けには、市役所での相談支援を充実させる。	市のホームページ「つながる協働ひろば」や SNS 等により、様々な協働の取組の情報発信に引き続き努めていきます。 また、総合相談支援事業として、市役所本庁舎内に ESD・市民協働推進センターを設置し、相談支援の充実を図っています。	今後の施策・事業の参考とさせていただきます。